新連載

ここが知りたかった！

家庭菜園の基礎知識

野菜作りをはじめよう



第１回

野菜の種類と品種の選び方

板木技術士事務所　所長
板木　利隆

都会でも田舎でも、野菜作りを楽しむ方が大変増えているようです。土に触れ、額に汗する喜び、植物を育む楽しさは格別なものがあります。けれど、野菜の生理生態についての基礎知識が乏しく、作物としての特性や生育に応じた管理もできず、失敗の原因も分からないまま、うまく作れないと悩まれている方も多いようです。そこで、野菜作りビギナーの皆さんに、家庭菜園に最低限必要な基礎知識を分かりやすく紹介していきたいと思います。

著者略歴



板木　利隆
（いたぎ・としたか）
神奈川県園芸試験場場長、神奈川県農業総合研究所所長、全農農業技術センター技術主管を経て現職に。JA全農嘱託、茨城県立農業大学校非常勤講師。農学博士。

野菜のグループ分け

野菜作りの基本は、タネ（種子・苗）、土（畑・土壌）、こやし（堆肥（たいひ））類・肥料）にあることは古くから言われていることですので、この基礎知識の連載も、第１回目は、タネに関することから入ることにしましょう。

野菜は種類が大変多く、現在日本で栽培されているものだけでも１５０種以上あり、国際交流が盛んになるにつれて外国から新顔野菜も導入され、ますます種類が増え続けています。

第１表　類縁関係による野菜のグループ分け

類別	科名	種類名					
果菜類	ナス科	ナス トマト ピーマン トウガラシ	葉茎菜類	アブラナ科	タカナ キャベツ ハナヤサイ ブロッコリ メキャベツ コールラビ クレソン スグキナ コマツナ マナ	葉茎菜類	キク科	レタス エンダイブ セルタス アーティチョーク タンポポ サルシフィー カルドン フキ
	ウリ科	キュウリ ヒョウタン シロウリ トウガン カボチャ メロン スイカ ヘチマ ツルレイシ		アカザ科	ホウレンソウ フダンソウ オカヒジキ		シソ科	シソ タイム セイジ
	イネ科	トウモロコシ		セリ科	セルリー パセリ ミツバ フェンネル セリ アシタバ		ショウガ科	ミョウガ
	アオイ科	オクラ		ユリ科	ネギ リーキ ワケギ アサツキ ニラ ニンニク ラッキョウ タマネギ アスパラガス		タデ科	タデ ルバーブ
	マメ科	インゲンマメ ササゲ フジマメ エダマメ ナタマメ ソラマメ エンドウ ラッカセイ		キク科	シュンギク		ウコギ科	ウド
	バラ科	イチゴ	根菜類	アブラナ科	カブ ダイコン ワサビダイコン ラディッシュ ワサビ			
葉茎菜類	アブラナ科	ハクサイ タイサイ ミズナ カラシナ		ナス科	ジャガイモ			
				ヒルガオ科	サツマイモ			
				ヤマノイモ科	ヤマノイモ			
				サトイモ科	サトイモ			
				キク科	ゴボウ			
				セリ科	ニンジン			
				ショウガ科	ショウガ			
				オモダカ科	クワイ			
				アカザ科	ビート			

どんな野菜を作るか、種類選びのポイント

これらの種類を利用する部分で形態的に大別すると、果菜類、葉茎菜類、根菜類となります（第1表）。植物学的には根のように見えても、実際は茎の変形なのに根菜類とされたり（ジャガイモ、サトイモなど）、蕾の塊なのに葉茎菜類とされているものもありますが（ブロッコリ、カリフラワーなど）、便宜上三つに大別されています。

植物としての類縁関係でグループ分けすると、形態からは判別しにくいもの同士が近縁であったりするので（トマトとジャガイモ、ナスなど）、これも作付計画を立てる場合の連作・輪作の可否などを判断するために知っておくことが大切です。

大所帯はウリ科、マメ科、アブラナ科、ユリ科、キク科であり、バラ科（イチゴ）やイネ科（トウモロコシ）は、この範囲では独居派です。

作りたい種類は、個人の好みによって異なるのは当然ですが、それは別として、一般的に魅力のある野菜

第1図　種類選びのポイント

❶ 多く消費する重要野菜



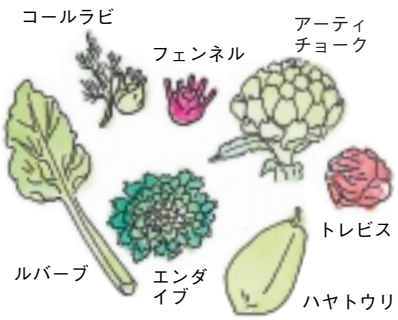
常時たくさん消費する野菜は、家計面でも大助かり。面積にゆとりのある菜園では、まさに立役者。

❷ とりたての新鮮な味・色を楽しむ野菜



野菜の第一の魅力は新鮮な味。家庭菜園に欠くことのできない種類。野菜がこんなにおいしいものとは。感激！

❸ 店頭では容易に求めにくい珍しい野菜



ファッショナブルな外来野菜。古くからあっても流通にのらなかった特色ある野菜も、家庭菜園なら自由に。

❹ 少しの面積でほとんど一年中自給できる野菜



プランター1～2個で十分完全に自給できる野菜も多い。キッチンから0分の身近さが、意外に重宝です。

第2図　品種選びのポイント

1. 栽培時期に合った品種を選ぶ

越冬する栽培での耐寒性、夏に向けての耐暑性はもとより、春まきホウレンソウは春まき用の品種を用いないと、高温・長日になると苔立ちしてしまいます。秋まき春どりキャベツ、春まき夏どりダイコンなどは、低温感応性の低い品種を用いないと苔立ちして収穫できないことになってしまいます。春まき用か秋まき用かについては特に注意して品種を選びましょう。



低温にあったり長日条件になったりすると、苔立ちする種類がある。その性質は品種によって大きく違う。品種の選び方を誤ると致命的。

2. 新しい利用法に向く品種を選ぶ



新しい調理法、食嗜好に向く品種。まだ一般化していないものなどを選ぶのも興味深い。毎作一部に試作してみるとよい。

3. 地方色に富んだ品種を選ぶ

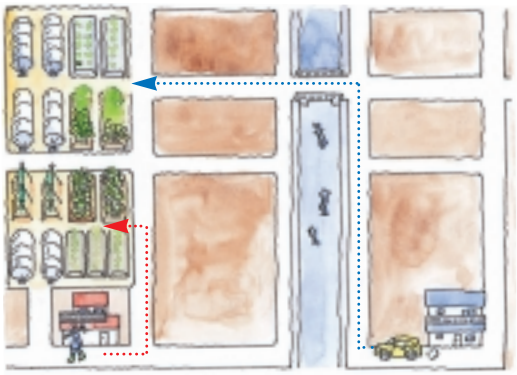


古くからその地方の風土、食生活に合った品種がある。これらのうちには地方でも容易に育てられるものも多い。

第３図　畑の条件のよる野菜選びのポイント

Check・1 遠いか近いか

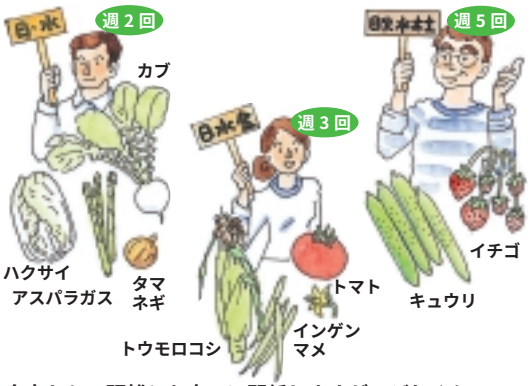
住まいから畑までの距離



自宅の庭先に菜園があれば最高です。朝夕にでも管理できるので、どの種類を選んでも育ちをよく観察することができ、手入れも行き届きます。しかし自宅から離れるにしたがって選べる種類は制約されてきます。特に毎日収穫しなければならないものは無理ですし、魅力あるものは心ない人に盗まれることもあるので困りものです。

Check・2 週に何回通えるか

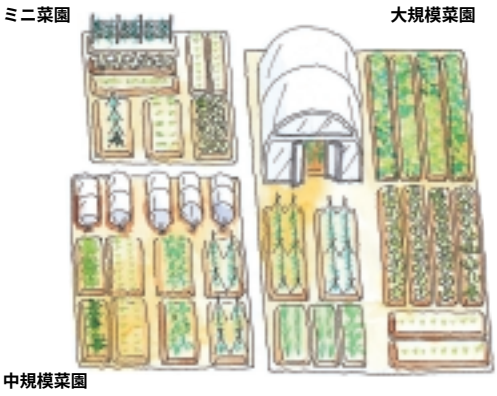
1週間に畑に通える回数



自宅からの距離とも大いに関係しますが、どれぐらいの頻度で畑に行って管理できるかということが種類選びに大きくかかわってきます。毎日なら自宅近くとほとんど変わりませんが、週に１～２回、極端な場合には月に２～３回という方もいることでしょう。そうなると、秋冬作ならまだよいのですが、育ちの早い春夏作では種類が制限されてきます。

Check・3 畑の大きさ

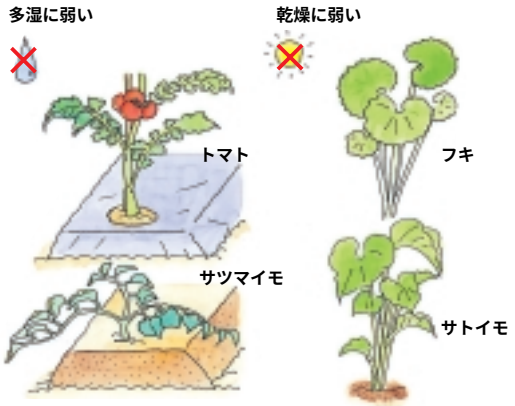
野菜を育てる菜園の広さ



数㎡（１～２坪）程度のミニ菜園か、10㎡くらいか、あるいは100㎡（30坪）、数百㎡（200坪内外）以上もある大規模菜園なのかによって、当然栽培する種類についての考え方は大きく変えなければなりません。狭ければ少量の消費量で足りるものや珍しいものに限定し、広ければ選択の自由度は高まります。

Check・4 土壌水分

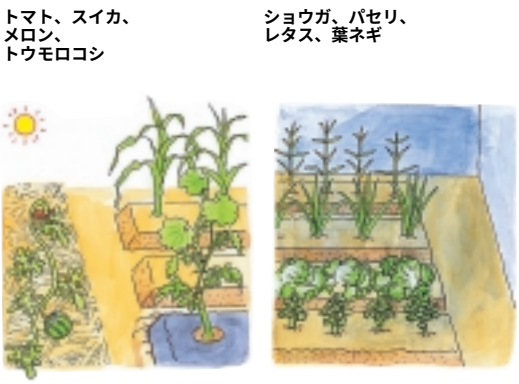
土の水分による違い



土壌の乾湿によって野菜の生育は大きく異なります。乾燥に弱いのはサトイモ、セルリー、フキなどで、逆に多湿の方がよく育つのはセリ、クレソンなど、水がなくては育たないのがハス、クワイなどです。多湿に弱いのはトマト、サツマイモ、根深ネギ、カボチャなど数多く、排水の悪い畑では高畝にしないとよく育ちません。

Check・5 日当たりの良しあし

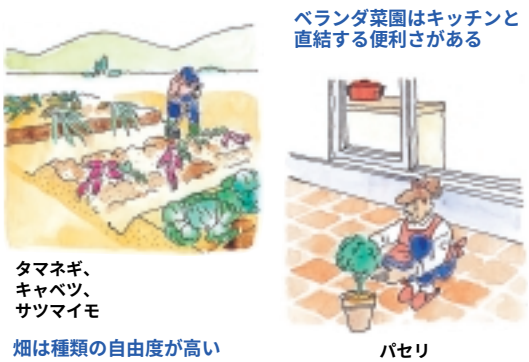
日当たりの良さによる違い



強い光線を好み、日陰ではよく育たない代表的な種類はスイカ、メロン、トマトなどの果菜類です。半日陰では着果不良や糖度不足で全くだめです。トウモロコシやサツマイモも強光線好みです。弱い光線にも比較的よく耐えるのはミョウガ、フキ、ミツバ、葉ネギ、サトイモなどです。果菜類ではインゲンマメぐらいです。

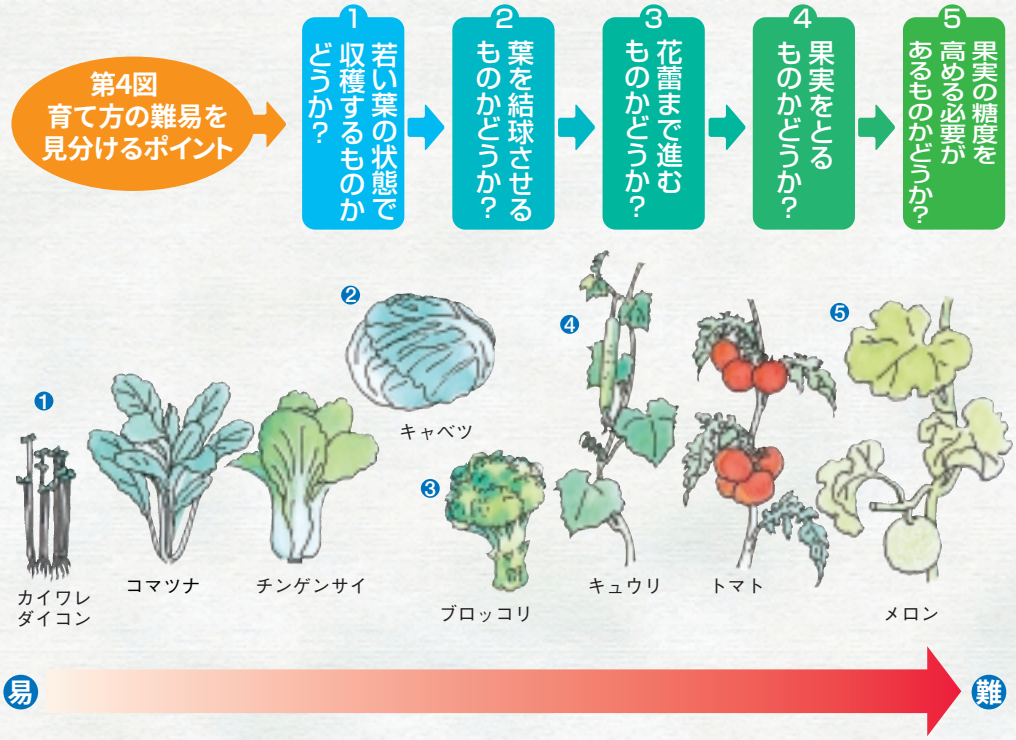
Check・6 畑かベランダ菜園か

育てるのは畑かベランダか



畑は根域土壌が無限大にあるので種類選択の幅は大きいですが、ベランダ菜園ではプランターを用いるため、場所も制限され種類も限られてきます。しかし「台所から０分」というように、畑とキッチンが直結していて、目が届きやすいという利点があります。少量あれば足りる香味・香辛野菜やつまもの野菜には最適。畑と併せても魅力十分です。

の種類選びの基準として、四つのポイントがあげられます（52頁第1図）。畑が広ければ①の多く消費するものを、狭くなるにしたがって②③④、②③、③④から選び、ごく狭いスペースで行うベランダや庭先のプランター作りなら④の中のものを主に選ぶのがよいでしょう。



育てやすくて魅力ある、品種選びのポイント

一つの種類の中には極めて多くの品種（例えば日本種苗協会に200）

1年登録されているものでトマト400余種、キャベツ300余種などがあります。通常は市販のタネの中から栽培時期、好みなどに合ったものを選ぶのが普通ですが、さらに進んで、育成元の種苗会社が発行するカタログや情報誌の記事などから先進的な優良品種や新品種を選び、注文して入手するようにしてはいかがでしょうか（52頁第2図）。また、それぞれの地方には、その土地や食習慣などに適した在来品種が数多くありますから、その中から選ぶことも大切です。全国的に画一化された品種が多く、個性が失われつつある昨今、これらの品種を探して育ててみるのも、大変興味がわいてきます。

第2表　野菜の種類と育て方の難易度

植えどき まきどき	種別	畑 やさしいもの	畑 少し丹精すればできるもの	畑 かなりの丹精を要するもの	プランター やさしいもの	プランター 少し丹精すればできるもの	プランター かなりの丹精を要するもの
春	果菜類	インゲンマメ、オクラ	ナス、キュウリ、ピーマン	メロン、トマト	インゲンマメ、ミニトマト	ナス、キュウリ、ピーマン	スイカ、メロン、トマト
春	葉茎菜類	ホウレンソウ、シソ、クレソンなど	レタス、キャベツ、ネギ、フェンネル、タイム	結球レタス、トレビス	カイワレダイコン、パセリ、シソ	レタス、ネギ、ミミツバ、ニラ	―――
春	根菜類	ラディッシュ	ショウガ	クワイ	コカブ	ジャガイモ	―――
夏	果菜類	インゲンマメ	キュウリ	メロン	ミニトマト	インゲンマメ	キュウリ
夏	葉茎菜類	コマツナ	キャベツ、コールラビ	セルリー、ミツバ	コマツナ	コモチカンラン、ブロッコリ	セルリー、ミツバ
夏	根菜類	―――	ニンジン	―――	―――	ラディッシュ	ダイコン
秋	果菜類	エンドウ	イチゴ	―――	―――	エンドウ	イチゴ
秋	葉茎菜類	コマツナ、ツケナ、レタス、ホウレンソウ、シュンギク	タマネギ、ネギ、キャベツ、レタス	結球レタス、ハクサイ	ツケナ類、クレソン、コマツナ	パセリ、サラダナ、シュンギク	ブロッコリ、タマネギ
秋	根菜類	コカブ	ダイコン	ヤマイモ	ラディッシュ、コカブ	ビート	―――

畑の条件を考えて種類を選ぶ

野菜は生育スピードが早いものが多いので、適期を逃さずに管理することが大切ですが、中には相当手抜きしても栽培できる種類もあります。

種類選びに関係する畑の条件として重要視しなければならないのは、①畑までの距離、②通える頻度、③畑の広さ、④日当たり具合、⑤土壌水分、⑥畑かベランダか、などです（第3図）。

腕前と育て方の難易度で再検討！

野菜作りに取りかかるときの種類選びにおいても、スポーツや手芸な

ど趣味を楽しむ時と同じように、自分の腕前や経験に応じて、初級、中級、上級のコース別を選び、実力をつけながらより高度なレベルへと進んでいくのが正攻法といえましょう。（**54頁第4図**）

そこで、種類別に難易度をつけてみました（**54頁第2表**）。

最も育てやすいのは若い葉で収穫してしまうものですが、葉の枚数を多く必要とするもの、結球するものとなるにつれて難易度は高まります。葉を育て、花をつけ、それが果実になって初めて収穫できるものは相当難しく、果実の糖度を高めなくてはならないものは最も難易度が高くなります。糖度が十分にのった見事なメロンを毎年失敗なく作れるようになれば、野菜作りも免許皆伝と言ってもよいでしょう。

まず栽培に成功することが、情熱を長続きされることにつながります。やみくもにはじめるのではなく、前述の条件から選んだ野菜の種類をこのような難易度の面から再検討されることをおすすめします。



今月の農作業 1月

軟弱野菜の防寒対策

ホウレンソウ、コマツナ、シュンギクなどは元来低湿に強いので、一般平暖地で適期まきしたものは自然状態で収穫できますが、寒気の強い地域で、特に冬でもよく育った良品質の品を求めるには防寒対策を行うのが有効です。また、防寒対策をすることを前提に、まき時を計画的に遅らせる作型をとり入れることもできます。

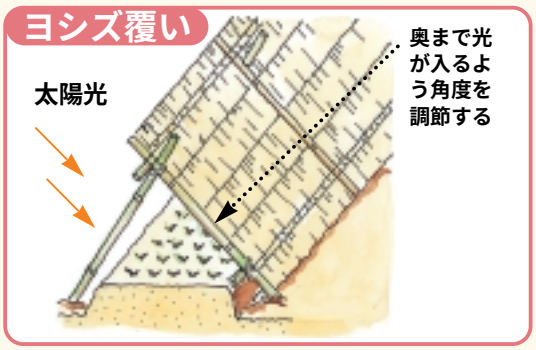
資材としては、昔はほとんど竹笹、ヨシズが用いられていました。これらが入手できればそれでもよいのですが、一般的にはベタがけ資材（『タフベル』『テクテク』などの不織布類）、ネット（『ホームハッピー』などの寒冷紗類）、プラスチックフィルムなどを用います。

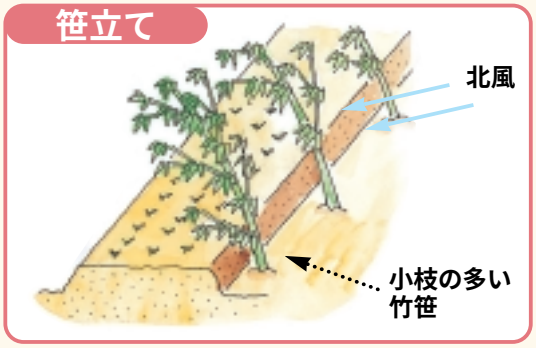
ベタがけは極めて軽量なので、葉上に直接被覆（直がけ）します。

ネットやフィルムは骨材をトンネル状に立てて被覆（トンネルがけ）します。通気性のよいこれらの資材は、トンネルの四方の裾に土をかけたり、固定用具でさし止め、風に飛ばされない程度に固定します。これらの資材は、いずれも覆ったまま上から潅水や薬剤散布を行うことも十分可能なので、大変省力的に管理できます。

フィルムは、日中気温が高まり、土に蓄熱されるので、前者よりも保温力が高く、生長が格段に早いのですが、日中の気温が27～28℃以上に上がると育ちが軟弱になり、かえって夜の低温害を受けやすくなります。必ず頂部に小さな穴を適当な間隔で開けるか、裾をところどころ少したくし上げて、温度が必要以上に上がりすぎないように管理することが大切です。

【伝統的な防寒対策】





【現在の一般的な防寒対策】

